

綿織物に対する視覚 白と赤の場合

文化女大家政 成瀬信子 ○ 細井令子

目的 人間の視覚は同一材質の織物でもその色と構成によつて、異なると考え方をする。そこで、構成要因の差が比較的、単純な違いをもつ綿ブロード 40, 60, 80, 100 番と、構成がかなり異なる綿のオックスフォード、綿サテン、ピケ、ブラッセングデーム、綿ローンの2つのグループについて、白と赤の場合の視覚的な官能量を中心として、比較検討し、光学的な測定との対応をみた。

方法 各試験布をのり抜き処理後、直接染料 6% 濃度でそれぞれ赤に染色した。白い試験布は染色と同じ条件で染料なしで熱湯処理をした。綿ブロードとその他の織物を別グループとし、赤と白にさらにわけ、Schiff の一対比較法別法（順序効果のない場合）により、表面特性と、色に関する官能量について、官能検査を行なった。また、各試験布について、色および光反射特性を測定し、官能量との関係を調べた。さらに、赤と白との視覚的な考え方の関係を統計処理により検討した。

結果 綿織物のつやの大きさ、つやの衰さは常に赤より白の熱湯処理の方が、視覚的な差を大きく見わけ、布味の衰さは、構成要因が大きく変わる綿織物での比較は、白より赤の方が大きく見わけている。その布についての傾向は白と赤では多少異なっている。また、光反射特性と官能量との対応がかなりよいことが示された。